うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌
第５１号
発 行 日：2020年３月３１日
編集発行：魚津埋没林博物館
印　　刷：魚 津 印 刷（株）

殿さま気分で　見てみよう

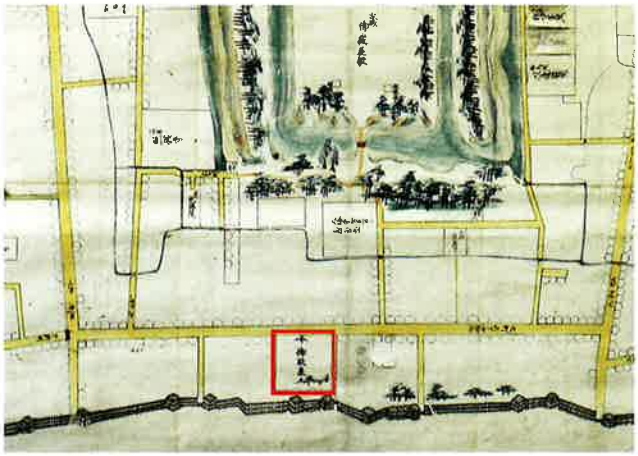
これは、2017年5月21日に撮った蜃気楼の写真です。何やら手前にごちゃごちゃと邪魔なものが写り込んでいると思われるかもしれません。でも、その邪魔者こそが、この写真を撮った場所が「大町海岸公園」であることを示す大事なものなのです。なぜこの場所？そしてタイトルの“殿さま”とは？詳しくは中の記事で。

江戸時代の魚津の蜃気楼

学芸員　石須　秀知

2020年3月、「魚津浦の蜃気楼（御旅屋跡）」が気象現象に関するものとして初めての国の登録文化財（記念物（名勝地関係））になりました。では「魚津浦の蜃気楼（御旅屋跡）」とは、どのような歴史的背景や名所的価値があるもの（場所）なのでしょう。

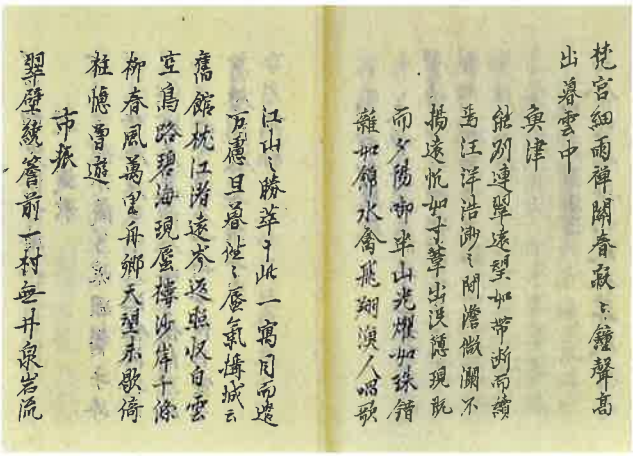
“御旅屋”とは、江戸時代に加賀藩主が参勤交代や領内視察などの際に使った宿泊所のことです。魚津も加賀藩領で、参勤で江戸との往復の通り道となるため、御旅屋が置かれました。江戸時代の『魚津町惣絵図』（天明5（1785）年）に記された魚津の御旅屋は、現在の大町海岸公園の場所（表紙写真）にあたります。御旅屋の敷地は浜に接して富山湾を見渡すことができ、蜃気楼も見ることができます。このような事情から、加賀藩の資料の中には、魚津の蜃気楼に関するものがいくつも残されています。



魚津町惣絵図に記された御旅屋（赤枠）

現在の御旅屋跡（大町海岸公園）

今までに分かっている中で、魚津の蜃気楼が登場するもっとも古い文献は、今から約350年前の寛文9（1669）年、加賀藩に仕えた儒学者の沢田宗堅が書いた『寛文東行記』です。これは、沢田宗堅が藩主に先行して参勤の道中をめぐり、名所旧跡などについて記録や漢詩をつづったもので、その中で『魚津』と題して蜃気楼のことに触れています。これは、加賀藩や魚津にとどまらず日本国内で見られる蜃気楼に関する記述としても、最も古いものになります。



『寛文東行記』魚津の記述
（金沢市立玉川図書館蔵『松雲公採集遺編類纂』より）

沢田宗堅に続いて加賀藩に仕えた室鳩巣も魚津の蜃気楼を『早発魚津』と題した漢詩に詠んでいます。この漢詩は魚津で広く親しまれていたようで、明治末から昭和の前半にかけて発行された魚津の蜃気楼を題材とした絵はがきの中に、この『早発魚津』を刷り込んだものが何点も見られます。

明治期の蜃気楼絵葉書と漢詩部分拡大

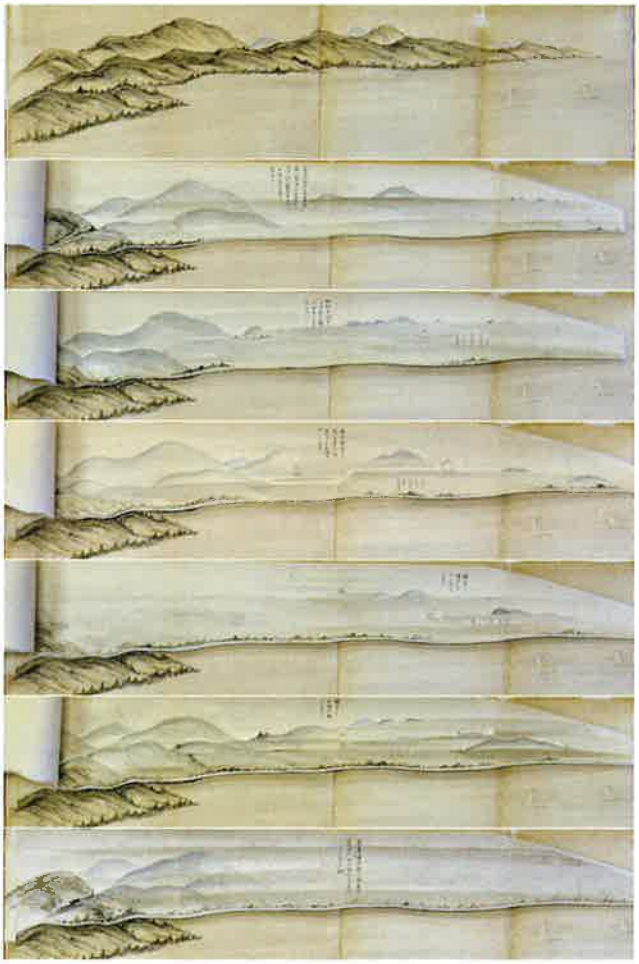
沢田宗堅と室鳩巣が仕えていた時期の加賀藩主は、前田綱紀（つなのり）でした。綱紀自身も、魚津の蜃気楼に関して記録に登場します。『魚津古今記』（増川屋与八郎、天明8（1788）年）に、綱紀が魚津で蜃気楼に遭遇し、以後蜃気楼のことを「喜見城（きけんじょう）」と呼ぶように命じたと伝えられています。この「喜見城」の呼び名は、昭和前半ぐらいまでは魚津やその周辺で使われていたようです。

このように魚津の蜃気楼の歴史は、今のところ沢田宗堅、室鳩巣などを含め前田綱紀が加賀藩主であった17世紀後半ぐらいまでさかのぼることができるようです。

「魚津浦の蜃気楼（御旅屋跡）」に関する資料として、もっとも重要で興味深い資料は、『魚津蜃気楼之図附（つけたり）喜見城之図断』（金沢市立玉川図書館蔵）です。これは、寛政9（1797）年に、当時の加賀藩主前田治脩（はるなが）が、江戸から金沢への参勤の帰り道中に魚津で遭遇した蜃気楼を描かせた絵図です。絵の構図は富山湾を俯瞰した形で、手前に御旅屋、奥に対岸の富山（岩瀬付近）の風景が描かれています。図の右下には当時の状況が記され、日時は寛政9年4月13日、申（さる）の上刻、未（ひつじ）の中刻から酉（とり）の上刻に及ぶとなっています。これを今の暦や時間に換算すると、1797年5月9日の午後3時頃、午後2時頃から5時頃までとなります。このように日時がはっきりしているのは、記録としてとても大事なことです。そしてこの図の最も大きな特徴は、時間とともに変化していく蜃気楼の様子を6枚の細長い紙片に描き、それを元の風景の絵の上に重ねながら見ることで、蜃気楼が見え始めてから消えるまでの様子がわかることです。現在のパラパラマンガにも通じる、おもしろい表現方法ではないでしょうか。

このように“魚津浦”は、江戸時代から途切れることなく記録が残され、現在も全国に知られた蜃気楼の名所であり、“御旅屋跡”は、その歴史的な中心として重要な場所なのです。

『魚津蜃気楼之図附喜見城之図断』（金沢市立玉川図書館蔵）



元の風景と蜃気楼の変化を図より抜粋

シリーズ

埋没林の仲間たち ㊼

カバノキ属（カバノキ科）

ウダイカンバの樹皮

ミズメの葉

カバノキ属は北半球のあまり暑くない地域に広く分布する落葉広葉樹の1グループです。日本には10種前後あり、よく知られているものに内陸の高原などに見られるシラカンバ（シラカバ）があります。この仲間の多くは、樹皮に横長の皮目（ひもく）という模様があり、また樹皮が薄くはがれる性質を持ちます。山地に生えるウダイカンバは大木になり、樹皮はシラカンバに比べるとくすんだ灰色をしています。ミズメは、湿布薬の成分であるサリチル酸メチルを含んでおり、枝を折ると独特の匂いがします。

富山県内には、6種類程度のカバノキ属の樹木が見られます。魚津市内では山地にウダイカンバやミズメ、亜高山帯から上にダケカンバが生育しています。魚津埋没林では、1989年の調査でカバノキ属の花粉が検出されています。

ご利用案内

○ 開館時間　午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
○ 休 館 日　12月1日から3月15日までの木曜日（祝日の場合開館）、年末年始（12月29日～1月1日）
○ 入 館 料　・大人（高校生以上）…530円　・小中学生…260円
【令和2年4月から】・大人（高校生以上）…640円 ・小中学生…260円
○ 交　　通　・あいの風とやま鉄道魚津駅
・富山地方鉄道 新魚津駅
下車1.5㎞（タクシー…5分　徒　歩…25分）
・北陸自動車道魚津ICから3㎞車で10分
・魚津市民バス 埋没林博物館前下車

特別天然記念物
魚津埋没林博物館
UOZU BURIED FOREST MUSEUM
〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814☎(0765)22-1049
ホームページ https://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/
e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp